保育士の現実

柏陽中学校３年　市川　茉椰

皆さんは保育士の辛い現状を知っていますか。テレビやスマホのニュースで、保育士関連の虐待のニュースを最近よく目にします。そのようなニュースが報道されるたび、「どうしてそのようなことをするのか」「ありえない」というネットの厳しい声が聞こえてきます。保育士である私の母とどうして虐待が減らないのか一緒に考えてみました。

保育士という職業はそもそも人手が足りていません。ですが保育園に預けられる子供は減少しません。だから一人の先生で面倒を見なければならない子供の人数が増えていくばかりです。言葉すら通じない０歳児、不規則的な行動をとる１歳児と２歳児。そのような子供たちが七、八人いるクラスを先生二人で面倒を見ます。それに先生の仕事は勿論、子供と遊ぶだけではありません。給食を食べさせたり、家庭と保育園での様子を共有する連絡ノートを短時間で書いたり、寝付けない子供を寝かしつけないといけないのです。給食を食べさせるときは給食をひっくり返すたびに片付けをしたり、ちゃんと食べないと子供がお腹を空かせてしまうので少しでも食べさせようと努力します。ですが少しでもやり方を間違えてしまうと「無理やり食べさせた」と言われ、虐待となってしまうケースもあります。虐待防止のために防犯カメラを園内に設置している園もたくさんありますが、私は本当にそれで良いのだろうかと思いました。母が働いている職場カメラは音声なしの映像のみのカメラです。そのようなカメラだと、角度によって勘違いされてしまうことがあると思います。例えば子供が転びそうになったときにとっさに支えようとした先生が手を引っ張ると、角度によっては、ただ腕を強く引っ張っているように見えるかもしれません。防犯カメラは子供を守るためのもので、良いものだとは思いますが、働いている先生視点から考えたら、仕事を監視されているようで良い気はしないと母は言っていました。ですので、まずは音声ありのカメラを使用することで誤解を解くことができると思います。

最初に少し掠ったように、保育士の一番の問題といっても過言ではない人手不足はなかなか解決されません。そもそも人手不足が解消されないと虐待の問題もなくならないと思います。人手不足が起こると一人の先生の仕事量が増えて、ストレスが溜まったり、身体的にも辛くなります。それからイライラしやすくなり、優しさを忘れてしまいます。同じ保育園の先生に強くあたってしまうことも少なくはなく、職場内で喧嘩になったり、それが原因で陰口を叩かれてしまい、更にストレスを溜めてしまい、子供にまで手を出してしまうことがほとんどだそうです。ネットの声は「先生なんだから我慢しろ」とか、心無い言葉をよく見かけます。ですが先生だって同じ人間です。先生だからという理由で辛くならない訳ではありません。働く環境を良くしていくには人手不足の解消と一人の仕事量の減少が大切だと思います。そのためにはどのようなことをするべきでしょうか。私はロボットの活用をす

るべきだと思います。流石に子供の寝かしつけや給食を食べさせることは難しいと思いますが、机を組み立てたり、子供たちの手を洗わせるために水道まで連れて行くなど、ロボットにもできる仕事はたくさんあると思います。その仕事をロボットやAIに頼ることで仕事量を削減できると思います。人手不足という問題を根本的に解決するには人を増やすしかありません。それが難しいのであればロボットやAIを活用することが問題解決の鍵になると思います。

今の時代、AI を上手に活用できるか出来ないで仕事の効率が左右される時代になっていると思います。保育士に限らずAIを上手に活用し、誰もが働きやすい環境を作ってほしいと思っています。